

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

に全国規模の『定宿講』が結成されます。下ノ諏訪宿の加盟宿はもちろんのこと、全国すべての加盟宿に「お客様の到着が深夜であっても宿泊を断ってはいけない」とか、「お茶代をいただかなくても丁寧に接客すること」とか、「お客様の忘れ物は大きさにかわらず、ご宿泊の宿から確実にお届けすること」など、現代日本の“おもてなし”に通じる接客が求められました（撰取講定宿取扱規則）。当時の下ノ諏訪宿は、客引き女や遊女を置く華やかな宿屋と実意丁寧に努めた宿屋とに、二極化していたのではないかと思います。

3 江戸時代からずっと

2階中央では、江戸時代後期の旅人の日記に記された脇本陣丸屋の夕・朝食、幕末に下の原村の名主が記録した武士へのもてなし料理の献立と再現画像を展示しています。どの料理も“心づくし”を感じるもので、客のために意を注いだ下諏訪の人々の気概が伝わってきます。

先日、機会に恵まれ、まるや旅館さんに資料館で展示している夕食と朝食の献立を作っていただきました。江戸時代から伝わる膳や椀や皿に装われた料理は、見た目も味も上品そのもので、利休箸や笹の葉がさりげなく置かれており、本物の“おもてなし”を感じました。そして、この“おもてなし”が江戸時代からずっと受け継がれてきたんだな、と思いました。

4 無形文化財ともいえる何か

広重が下諏訪のキャッチフレーズを宿屋の中にしたのは、下ノ諏訪宿の“おもてなし”が当時すでに広く知られていたからかも知れません。

今、お客様が下諏訪を訪れ、人や歴史的な家並に触れた時、江戸時代から続く、無形文化財ともいえる何かを感じ、冒頭の感想になったのでは？ と思います。



まるや旅館さんに1813年4月22日(旧暦)の夕食(上)と23日の朝食(下)を実際に作っていただいた。



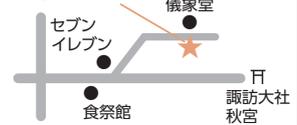
江戸時代の献立の展示を熱心に見てくださるお客様

そうだ！博物館に行こう！

この春、リニューアルした「宿場街道資料館」。専門研究員の小口徹先生に、資料館の魅力、新しく制作された興味ある展示品などについて、詳しく語っていただきました。ぜひ一度、資料館を訪ねてみてください。

〈下諏訪町宿場街道資料館〉
開館は昭和62年。入場無料。

場所はここだよ



「下諏訪は派手な宣伝はしてないけれど、しっとりと落ち着いた町ですね。癒されます。」「じっくり歩くと見所をたくさん発見できる町ですね。」といった下諏訪の魅力を、宿場街道資料館に来館された何人かのお客様が語ってくださいます。この下諏訪の魅力は江戸時代後期には確立していたと考えられますが、そのことを資料館でお伝えしていきたいと思っています。

1 広重はなぜ宿屋の中を描いたのか

資料館1階では、浮世絵『木曾海道六拾九次』の信濃路分16枚を展示しています。

それぞれの風景画は、例えば「和田と言えは『天下の嶮』の和田峠を控えた宿場」というように、各宿場のキャッチフレーズを絵で表しているといわれます。



リラックスする男
(部分拡大)

下諏訪はというと、唯一野外風景ではなく、宿屋の中が描かれています。ちなみに絵師は広重です。画面左側にはリラックスした表情で風呂に入る男性、中央には夕食をとる6人の男性客が描かれています。部屋の奥には給仕の女中がいて、優しい表情で「お客さん、盛りましたよ」と、ご飯のおかわりを注文した男性に声をかけたところでしょうか。食事が美味しいのか、皆が食べることに集中しているようです。

広重は、なぜ宿屋の中を下諏訪のキャッチフレーズにしたのでしょうか。



木曾海道六拾九次之内下諏訪（一粒斎広重画）の夕食風景（部分拡大）

2 宿屋の二極化？

2階では、下ノ諏訪宿が外部からどのように見られ、宿場ではどんな日常ドラマが展開し、どんな事件があったのか、史料をできるだけ口語訳して紹介しています。

まず、下ノ諏訪宿は「名にしおう下の諏方」と書かれていて（木曾路名所図会）、とても有名だったことがわかります。日常的に遊女らによる客引きが盛んに行われ、宣伝チラシやガイドブックへ広告を載せるなどして客を寄せ、かなり賑わった宿屋もあったようです。一方で、ストイックな商人等のため



滑稽本で有名な十返舎一九が下ノ諏訪宿での客引きの様子を面白おかしく書いている。



講札：今でいうと「旅館協会の会員証」といったところか。定宿講加盟宿の目立つ所へ掲げられた。加盟宿はかなり厳選され、一宿場にせいぜい1軒か2軒だった。

社中を語る会

ノース下諏訪ネットワーク 地域連携部 河西 雄一

2008年から活動が始まった「ノース下諏訪ネットワーク」ですが、今年で活動10年を迎えました。「地域と学校の連携を築きましょう」をスローガンに、当時のPTA役員の方々の協力で組織されました。私も、2014年に下諏訪中学校のPTA会長を受けた時より活動をさせていただき、主に地域連携部の活動に関わってきました。地域連携部の主な活動は、地域活動（お祭や敬老会、防災訓練、等）に児童・生徒たちが積極的に参画できるように、また、学校の行事（運動会、音楽会、文化祭、等）に地域の住民の皆さんが積極的に参画できるようにお手伝いをしています。具体的には、一年に一度開かれる「社中を語る会」や「地域連携合同会議」で、児童・生徒たちと地域の住民が意見交換をし、交流の機会を検討しています。



今年7月に開催された「社中を語る会」では、生徒と地域住民が5つの分科会に分れ、「A：いじめ、人権について～社中の良い所～ 今後の取組～」「B：下諏訪町の環境づくりにどう向き合うのか」「C：あいさつと歌声で地域とつながるために」「D：夏休中の健康的な過ごし方について」「E：資源回収や地域行事（防災訓練含む）への参加について」をテーマに沿って意見交換を行いました。社中学校2・3年生徒会役員、各区の区長・分館長、PTA会長・三役・役員、民生児童福祉委員、主任児童委員、保護司、防災士、ノース下諏訪ネットワークのメンバーが、それぞれの分科会に分かれ、各分科会15名前後で語り合いました。

私は、E分科会に参加しました。資源回収について、地域住民の方から、空き缶を家庭で集めて保管しているが、社中の昇降口まで持って行くのはきついで、回収方法を検討してほしいという意見が出ました。社中では、資源回収の活動としてアルミ缶の回収をしていて、それを回収業者さんに買い取っていただき、文化祭の運営費に当てています。生徒会としては「しっかりと運営費を確保したい。」という思いがあり、地域住民の皆さんは「少しでも学校に協力したい。」という思いがありますが、なかなか上手くリンクしない場面も出てきています。また、防災に関しては、生徒の皆さんに有事の際に自ら行動ができるように、各地域の防災訓練に参加してもらい、避難場所の確認から実際の防災方法の確認などを、身に付けてほしいという意見が出ました。



それらの問題を解決していくためにも、日頃から地域住民の皆さんと生徒達が顔と顔を合わせ積極的に関わり、気軽に意見交換ができる環境にしていくことが大切だと気づかされました。

ノース下諏訪ネットワークとして、このような機会を通して学校と地域が、より一層密接な関係を築けるように活動をしていきたいと思えます。

小綱を持ってお舟祭へ行こう!!^{おとうごう}~~10年に一度の御頭郷~~

下諏訪南小学校 荻久保メイ子

今年度、下諏訪町PTA連合会では「創る・守る・つなぐ ~30年後の君たちへ~」をテーマに活動を行っています。そして今年は10年に一度の御頭郷^{おとうごう}！多くの子どもたちにお舟祭を体験して身近に感じていただきたいと思います。地域の伝統行事を守り、未来へつなぐという目的で、PTA連合会とノース下諏訪ネットワーク、なぎがまコミュニティスクール共催で「小綱配布プロジェクト」を立ち上げ、町内の小中学校児童生徒全員に1,500本の小綱を配布し、お舟祭に参加しました。

□小綱作り 7/1(日) 午前9時30分~ 会場：南小学校、北小学校 1,500本作製



なぎがまCS 西村さんの
あいさつ



子ども^{きや}木遣り
協力一致でおねがいだ

同じ長さに切っています



中学生も参加
効率アップ!



たくさんの方に参加して
いただきました

□お舟 8/1(水)



とても暑い日でしたが、小綱を持って、みんな笑顔でお舟を曳きました

歴史の町下諏訪。各区に眠っているお宝を、地元の方に解説していただきました。

東山田の宝物 — 熊野神社と行屋 —

東山田 宮坂 源吉



東山田の建物文化財といえ、町指定の熊野神社本殿と行屋です。指定にはなっていない建物には、峯見薬師堂・西浦薬師堂等があり、比較的新しいところでは、「山田巖邸」が現在マルヤス工業株式会社の歴史館として内部展示されています。

今回は、熊野神社と行屋、それから石碑群を紹介します。近くにあるためじっくり鑑賞するのに向いていると思います。

本殿は棟札に大隅流村田長左衛門矩重作、小建築ながら格調高い社殿です。特色は、総檜

「平入り向唐破風造り」二重垂木、地上五十糎に切目縁を回し、勾欄に添って六階の段の上に本殿が建ち、正面に二枚の開き戸がついていて、大胆で精巧な彫刻に目を見張る。木鼻は象と獅子で飾り、虹梁の上に得意の竜を力強く彫り、その上の万寿頭には神亀を、最上段唐破風の下面には兎毛通しの両翼を広げた三羽の鶴が舞い、唐破風と一木造りで彫られていて見事です。

「熊野神社」の額の後ろには麒麟の装飾彫刻を、正面両横の脇羽目には右に上り竜、左に下り竜が不動剣に巻き付いて躍動し、後ろの左右脇障子は、右に翼のついた舞い上がる飛竜を、左に舞い下がる飛竜を配し、東西の妻には支輪の波に千鳥を飾り、唯入念に組み込まれた彫刻の確かさに感嘆される。本殿は二百年余りの年月で痛みがひどく、補修を機に、平成二年鞘堂で覆



い保存している。

行屋は熊野神社参道左手にあり、修験道の拠点で、庶民信仰の場として村人たちが「講」という信仰を同じくする人が集まるところだった。お日待ちともいわれ、内部は神座と祈祷所、その隣に賄い所（娯座）即ち火地炉付き勝手場をもつ。昭和五十一年、茅萱屋根にトタンがかげられた。行屋の前には滝と水垢離の池があり、その正面には修行の本尊とする「大岩不動明王」の碑が建っている（他六基）。

この不動滝で身を清め、お山へさらには駒ヶ岳、御岳へと向かい、修行、加持祈祷、天下泰平、五穀豊穰、病氣平癒、雨乞い等につとめた。お山の入口に行者の霊神碑が並び、お山石段登り口左に威力不動（小尾権三郎）、お山には全国霊場を勧進した碑が立ち並ぶ。一際目を引く「摩利支天」は原石の形を利用し、彫りのバランスが冴え渡る見事な物である。碑群中に通称「念仏ばあさん」があり、元禄十丁丑年仲冬吉日東海老母欽造立之と彫がある。行者は生あるうち

江戶時代初期幕府より、一村一寺一社を配せとの沙汰がありました。東山田村は春宮の五官が住まい春宮は村社のようなものでしたが、一ノ宮なので、山の中腹竹原にあった権現堂（神仏習合修験道）を現在地に下げ、熊野三社（神仏習合修験道）を勧進し「熊野社」としました。社殿・石段・石鳥居の施主は藩主で、ご神紋は藩主から拝領の梶の葉が拝殿・本殿に印されている。熊野神社と行屋は一セットなのです。（熊野社由緒書・写真集より引用）



あるうち

に自分の名号碑を建てるが、この像は謎があつて面白い。



町立図書館のおすすめ本コーナー



「憲法が変わるかもしれない社会」 高橋源一郎 著

この国の根本の形を定めた「憲法」が、戦後初めて、本当に変わるかもしれない時代になった。どんな時代がこの先待ちかまえているのか、誰もはっきりとは言えないにもかかわらず、過去は強制終了されようとしている。だからこそ、そして、今こそ考えたい。しかし事実や原理をしっかりと学ぶにはどうしたらよいのだろうか。自分で考えて自分の足で歩くためには。本講義録はまさに目から鱗が落ちるような解説の連続である。

書評ボランティア 植松 昌弘 下諏訪町立図書館 ☎27-5555



町民大学

下諏訪を学ぶ ⑥

メンデル講演会

日時：11月24日（土） 午後1時30分～午後3時30分

会場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可（受講料100円）

①演 題：記憶力を鍛える

講師：石浦 章一 博士 【略歴】 東京大学名誉教授、現在同志社大学生命医学部特別客員教授
今回は「なぜ覚えられないか、記憶には種類があるか、遺伝子はこれらにどう関係しているか、記憶力を増進させることはできるのか」などについてお話しします。

②演 題：メンデル生誕200年に向けて

講師：長田 敏行 博士 【略歴】 東京大学名誉教授・法政大学名誉教授
2022年にメンデル生誕200年を迎えることとなります。この機会に、改めてメンデル法則発見の現代的意義を考えてみたいと思います。

お問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002

十一月のこころ

三日は文化の日。学生時代から私には約束事があった。父母の実家には一本の柿の木があった。渋柿ではあるが、毎年たくさんの実を付けた。この日の柿取りは、恒例の行事となっていたのである。

古くなった物干し竿の上部に切り込みを入れ、竹ばさみを作る。柿のなっている枝に通し、パキッと折る。実を落とさないように竿を引き、取れた柿を一つ一つ籠に入れていく…。根気のいる仕事であるが、私にとって楽しいひとときだった。取り終わると、来年の豊作を祈り、天の神様へのお供えとして三つばかりの柿を残した。

百数十個は収穫できたと思う。母は取れた柿を選別し、掘りごたつでさわし柿を、軒下で干し柿を、台所の一角で熟し柿を作ってくれた。干し柿の皮は野菜漬けにも一役買った。甘く熟した柿は、今でも私の好物である。

実家の柿の木は切っ
てしまって今はない。
誇らしげに天を仰ぐ三
個の柿と青い空。なぜ
か私の心に残る、遠い
昔の懐かしい思い出で
ある。

（松崎 泉）

